※11ページに全作品を掲載しております。

優秀賞
「地球温暖化防止（地球にやさしいエネルギー）」
秋田県　カタムラ看板店

優秀賞
「ふくしまから　はじめよう」
福島県　㈲東海堂アド工芸

サインクリエータ協会賞
「ながらスマホへの注意喚起」
秋田県　東京電装工業㈱

優秀賞
「都市と自然」
宮城県　㈱日の丸ディスプレー仙台

優秀賞
「環境」
宮城県　㈲アカシヤ画房

【感想】　＊審査員　羽生田光雄氏

・応募作品について

作品を審査するポイントとして、時代性や提案要素をいかに作品に組入れるかの視点（切り口）が大切と感じており、作品のメッセージ性を高めることに繋がると考えている。

今回の応募作品はプロが製作している関係上、作品の完成度・まとまり感に関してはどれも一定のレベル以上にあった。しかしながら、全体に共通する課題として、分かりやすさ、作品に込めるメッセージ性、メッセージと視覚的表現技術の相乗効果を高めるような新たな工夫・表現について、より高めていく必要性を感じた。

・今後について

屋外掲示物は、設置する場所、視認性、伝えようとする情報量でデザインが異なり、評価も異なる。東北地区の応募作品には、特に課題テーマの設定が無く、各製作者が独自テーマで作品を企画製作している。

屋外広告物は、公共の空間を利用し、対象者に情報を伝えようとするものである。その為屋外掲示物は、美しく街並みと調和するものでなければならない。その様な点から、今後は課題テーマや設置環境などの条件設定を検討してはどうだろうか。

【総評】　＊審査委員長　早見　憲氏

・審査を終えて

「情報ではなく、メッセージを。」

ビジュアルコミュニケーション、まさしく視覚でメッセージを伝える手段。看板の使命である。

小生もデザインにかかわり、かれこれ半世紀、相も変わらずこの難解で魅力的なテーマに取組んでいる、

今回のテーマ、審査基準は、発想力、デザイン力、技術力とあるが、この三拍子を高得点でクリアーするのが製作者の挑戦である。

今回のこの挑戦（作品）の評価は、次の5点を主な基準とした。「情報ではなくメッセージを伝える。」「差ではなく違いをみつける。」「ものではなく、ものがたりを描く。」「表面ではなく、内面をデザインする。」「見た目ではなく、見たいをつくる。」などあるが……、情報だけの表現、差をかたる表現、表面だけをとらえ、ものがたりがない（感動）などなどもうひと押し、ひと工夫ほしいところである。

グランプリは、今、話題の田んぼアートを、人工芝で表現したアイディア、いろいろ工夫をかさね苦労したであろう技術面。クリーンエネルギーを象徴的に表現したデザイン等を評価した。